



## ○「四国の魅力②」

徳島ラーメン「いのたに本店」にて撮影⇒

四国と山陰とは似ているところがあります。例えば、新幹線が通っておらず、寝台特急が未だに残っていることもその一つです。サンライズ出雲・瀬戸は東京から岡山まで連結運行しています。バブル期前後、高知県は国民休暇県構想を打ち出していました。リフレッシュリゾート島根だったと思いますが、同じような構想が島根県にもあったと記憶しています。高齢化率も上位を争ってきました。



バブル期の地域活性化は、箱物と呼ぶような美術館を建設して、著名な芸術家の作品を集めることで観光客を誘致するようなことが少なからずあったと記憶しています。その後の収益等を考えない、公共施設の建設に重点を置く政策を批判して箱物行政という言葉もありました。

今回2年生が研修旅行で訪れる徳島県名西郡神山(かみやま)町で活躍する認定NPO法人グリーンバレーは「日本の田舎をステキに変える！」をミッションに、ワーク・イン・レジデンス、サテライトオフィス支援事業、コワーキングスペースなどの事業を展開されています。

神山型と言われるワーク・イン・レジデンスとは、仕事を持ち、仕事を創り出してくれる人を誘致することに重きをおきます。例えば、一時的にでも制作活動に訪れる芸術家を呼び込む。そこでの滞在満足度を上げる。つまり、場の価値を磨く。そのために自費滞在する芸術家への支援策を講じる(お試し滞在施設の整備など)。やがて芸術家のつながりで様々なジャンルのクリエイターがやってくる。クリエイターたちが互いに知り合い、顔の見える関係を築くための新しいコミュニティづくりをしていく。このようなコンセプトで町づくりをし、町の発展をめざすのです。つまり、神山町では町の将来にとって必要となる「働き手」や「起業家」を逆指名しているのです。

神山町はIT企業の呼び込みでも成功しました。これが、サテライトオフィス支援事業です。IT関連企業を中心にサテライトオフィス設置だけでなく、本社を移転した企業もあります。iPhoneが発売された2007年には全国に先駆けて光ファイバー網が整備されたことによります。小川のせせらぎの中で普段着のままパソコンを開き仕事をする風景が神山スタイルです。来年度起業家たちが創る新しい学校、神山まるごと高専ができることもメディアで話題になっています。

グリーンバレーの理事、大南氏の講演を徳島であった研究大会で聴いたことがあります。演題は「『神山プロジェクト』～地域に誇りを持ち、創造力豊かな子どもを育てる～」の中で、創造的過疎という言葉が使われました。過疎を克服するのではなく、多様な働き方を実現できるビジネスの場としての価値を高める。過疎化問題とは、少子高齢化、人口流失の克服としてだけ捉えるのではなく、「雇用がない、仕事がない」課題の克服と捉えることだと理解しました。

「Café on y va(カフェオニヴァ)」という店の話も印象的でした。丁寧に暮らすをモットーに、週休3日で年間60%が休み。休みは個人のプロジェクト(趣味等)に挑戦し、そこから新たなビジネスを創出していく。ワーク・ライフ・バランスとは、時間と仕事(夢)のバランスと認識しました。

図書館も独創的。借りる図書館でなく預ける図書館。人生で影響を与えた3冊を厳選して町民が収蔵する。収蔵した人のみ図書館の鍵がもらえるというもの。預けるのは人生の転機となる3回のみ。卒業、結婚、退職の時とのこと。隠された図書館とも言われるそうです。

「人は見たものしか信じない。神山は、問題だらけで成り行きの未来だが可能性を感じる場所、上がりのない双六をしている感じ。」とは大南氏の言葉。神山で学びがありますように…。